

# 童

2016年12月22日。

11月下旬の初雪。そして、12月クリスマスマーケットの雪。今年は、雪が早いぞという覚悟の下で、早々と冬の備えと覚悟を持って臨んでいる師走。子供たちも、例年より早く、雪遊びの服装を揃え、雪遊び万全と冬に備えました。年内、クロカンスキーやそり遊びもできるかもしれないとわくわくしましたが、ここに来て、暖かくなり、肩透かしをくらっています。

しかし、子供たちは、雪を見つけてはキャーキャー言いながら遊んでいます。茶色のモノトーンの世界では、白い雪が、美しく目立つのですね。

師走、干し柿、大根漬け、そして、餅つき 味噌つくりと、年末らしい仕込みが連日続きました。まさに、里山の暮らし。と言っても、現代ではいや飯綱町の近所でも、干し柿や味噌作りなどの光景も少なくなっているようです。味噌作りなどは、特殊なことかもしれません。その意味で、大地は、里山の超最先端、里山トレンドかもしれません。それも、すべて遊びの中で行われ、しかもすべて食べることに直結。里山の暮らしから何かを学んで欲しいという教育的な目的ではなく、大きくなった時に、何か心地よいもの、うれしいもの、懐かしいものを思い返せるアルバムがどこかに刻まれていればいいというのが願いです。それは、匂いや味や光景であったりするものです。そのことは、自分自身、小さい時の思い出として、残っているからです。自己満足ですが、子供たちの中にそんな気持ち、思い出の光景がわずかでも残れば、まさに、大地の教育やったー！ と万歳します！！

そんなことで味をしめ、生まれてから、自分の記憶の中で、年末の餅つきは、動力そして電気の力を借りてやってきた思い出しかないのですが、今週末は、子供たち同様、親戚一同で、もち米を持ち寄り、大餅つき仕込み(大会のように甘いものではない！！)を行います。



## 【ありがとうの会】

お父さん お母さんへ

お鍋のおいしい季節となりました。いかがお過ごしですか。2017年1月1日(一粒万倍日)に私たちは入籍します。結婚にあたり2人で考えた結果、遠い昔からのいのちのつながり 私たちを産み育ててくれたこと 出会いにつながり すべてに感謝を込めて「ありがとうの会」を開こうと思います。

家族のみなさんに 私たちが暮らしている生活の場であり憩い時間を重ねてきた大好きな家に集まっていただけなら嬉しいです。みんなで薪ストーブにあたり ごはんを食べ ゆっくりと語り合う そんなあたたかいひとときを共に過ごせたらと思います。

ごはんは 私たち二人で心を込めてご用意します。おなかをペコペコにしていましてください。お待ちしております

12月吉日 落ち葉や木の実が飾られた手書きの大きなカードが、長男たちから届けられた。2人からは、結婚するという報告を受けていたが、もちろん結婚式や披露宴はしないだろうとは思っていた。せめて、友人たちや関係者を呼んで、お祝いの会を企画しようと親は思っていたが、そのプランにも乗って来なかった。そんな折に、先の手紙が届いた。彼らしいなと もちろん感激の思いで受け取った。

昔気質の祖父(青ちゃんの父)は大反対だったらしい。近所の親戚や縁者の手前、もちろん青山家の長男であるからして、世間に顔向けできないという気持ちからだろう。その気持ちは想像がついた。でも、祖母や青ちゃん姉ちゃんの声で何とかクリアした。更に、何で2階(雄飛たちの部屋)でやるのか、ちゃんと母屋には、仏間から日本間 座敷があるのだから、そこでやるべきだともめたらしい。さすがの雄飛も切れて「じゃ来なくてもいい」と言ったらしいが、すかさずはっちがうまく言って、事なきを得たようだ。祖父は、はっちには弱い！！

京都の92歳のハチ母さんの母、はっちの92歳の祖母も来てくれる。京都の祖母は、末っ子の雄和が、台湾帰りに京都へ寄って、祖母を引率して一緒に電車で来るということである。祖父母 兄弟のみの完全なる家族だけでありがとうの会が行われる。あの狭い階段を92歳の祖母たちがどうクリアするか。雄飛の歩荷魂が炸裂するか！！

ありがとうの会 に向けて、親たちは何か記念になるのものと、はっちの両親と相談して、本人たちに、「何か一生使えるものなどをプレゼントしたいので、何か必要なものを考えておいてね」と伝えておいた。ハッチの母親は、「嫁に行くので 布団などはやはり必要ですかね」という話が来たが、「彼らは布団よりも寝袋で、山で野宿しているので、布団は必要ない!?」とか、以前ルクルーゼの鍋がほしいと言っていたが、でも今は、かまどや薪ストーブだから、これも没!?という話の連続であった。

そして、昨日、以前の話で何か欲しいものと言われた件での話になり、とうとう来たか、会までに間に合いそうな物かな とドキドキしていたところ、「そういわれても、今は、全て揃っているし、これで幸せなので、欲しいものはない。将来、子どもが生まれたら、何か欲しいものが出てくるかもしれない」との返事。ああ、やっぱり。

性懲りもなく、「結納」というものはやはりやるべきかとか 婚約指輪や結婚指輪とかの話もあったが、簡単にスルーしてしまった。世帯主の話から健康保険や車の任意保険などの細かい所まで、結婚を機に、すべて、独立、自立しようと様々な手続きをしている。親は何もすることはなく、ただ見守るのみである。

「足るを知る生活」「日々の何げない幸せな暮らし」「朝起きたら、今日も幸せだと叫ぶ雄飛」子供たちから大切なことを学び、自分の中の曖昧にしている部分を恥じる毎日である。先日の田澤さんの講演会での話だが、子供は、何よりも、親と日々、ごはんを食べ、話をして、一緒に眠ること、が最高の幸せであるとあった。私たちは、これでもかという位、刺激的なものを与え、子供の笑顔や喜ぶ姿を見たい、いろいろやってあげる、連れて行ってあげる、体験させてあげる等々、これらが子どもの幸せ感がどんどん高まっていくと、勘違いすることがあるかもしれない。そのせいで、結局スケジュールが詰まり、忙しくなり、根本的な日々の食事や会話(まなざしと自己肯定感の源)そして、睡眠までもおろそかになってしまい、真の幸せ感が喪失していくおそれがあるのだろう。

その意味での「ありがとうの会」持ち物 食べ物 服装等の何の規定も書いてない。ただ、期日と開場の時間と場所(夢のたね)としか書いていない。そして、ゆっくりしてお泊りも大歓迎ですと書いてある。演出好きの青ちゃんにとっては、何かびっくりさせてやるかとか、青ちゃん夫婦の結婚式の服装で出席するかとか、プレゼントを持参するか、あれこれ考えていたが、それらは、逆に失礼だと恥じた。彼らの純粋な素朴な透き通った気持ちを台無しにすることだから。

彼らの食事を彼らの生活の場で一緒に食べて、いろいろ話をして、一緒に暮らす ことが最高の彼らの幸福であり、それらが最高の彼らへの贈りとなるのだろう。